

# たていわ・あかぎ



平成 27 年 6 月 1 日 発行

## 入所統計

館岩少年自然の家 1,491,204 人

赤城少年自然の家 742,705 人

開所以来の、少年自然の家利用延べ人数（平成 27 年 3 月末まで）

館岩少年自然の家 ☎0241-78-2311 / 赤城少年自然の家 ☎027-287-8507  
<http://www.saitama-city.ed.jp/05gakko/sizennoie/tateiwa/index.htm>

### 「成長を実感する自然の家」に

所長 駒宮 寿夫

今年には昨年以上の大雪で、白銀の世界のままで、新年度を迎えました。赤城、館岩での現地研修会も雪の残る中の活動となりましたが、参加者は、実りある自然の教室となるよう、真剣に取り組んでいました。

今年度は、「成長を実感する自然の家 感動 感化 感謝」をスローガンに掲げました。まずは感動体験をし、感化され、よりよく生きることがを体現する。そして、自分を取り巻く人、事物・事象に感謝する心と態度を持つ。それにより、個人として、集団として成長を実感することができると考えます。

自然の家では、子どもたちが普段の生活では味わえない価値ある体験を存分に味わい、今後の生き方に繋がる力と態度を身に付けられるように、そして一生の思い出となるように、所員一丸となって取り組んでまいります。

### 僕が館岩で学んだこと

与野南小学校 脇田 昂

僕は、館岩自然の教室で二つのことを学びました。一つ目は、仲間と協力することの大切さです。僕は、館岩自然の教室実行委員長として、入退所式やキャンドルファイヤーなどをしっかりできるか心配でした。しかし、実行委員のみんなと協力して行ったことで、どれも無事に終えることができました。

二つ目は、自然のめぐみです。館岩で焼き板や岩魚さばきをしたことで、僕は、改めて、大切な自然のめぐみに気づきました。

館岩自然の教室は、僕にとって大切な思い出の一つになりました。

### 館岩自然の教室・夏季



与野南小学校は、初めて館岩に来て、自然の教室を行いました。

### 赤城自然の教室・冬季



2つのゲレンデで、それぞれ3つのコースに分かれてすべりました。

### 赤城の三日間

神田小学校 関田 瑞稀

赤城で過ごした三日間で、いろいろな思い出ができました。

スキーでは、テストに合格しないと滑れない難しいコースに友達と一緒に合格して行くことができたので、とてもうれしかったです。

雪上運動会では、チームに分かれて対戦しました。ソリすべりや、たからさがしなど、楽しい種目がたくさんあり、私のチームは準優勝だったけれどすごく楽しかったです。

初めてクラスのみんなとスキーや雪遊びをして、思い出に残る三日間になりました。六年生では日光への修学旅行があるので、それまでに、もっと友達との友情を深めたいです。

# スタッフ紹介

☆所長：駒宮 寿夫 (2年目)      ◎所長補佐兼管理係長：紺野 正二 (1年目)

	係	職名	氏名	勤務年数	係	職名	氏名	勤務年数
館岩	管理	主査	大瀧 利明	2年目	指導	指導主事	生田目宗典	2年目
	管理	主事	野澤 祥則	1年目	指導	指導主事	田村 匡	1年目
	指導	<small>主任指導主事兼指導係長</small>	目黒 良作	3年目	指導	指導主事	葛西 耕輔	1年目
	指導	主任指導主事	伊澤 昌二	2年目	事務	臨時職員	星 タマヨ	19年目
	指導	主任指導主事	中村 誠	2年目	環境整備	臨時職員	平野 紘次	10年目
	指導	指導主事	伊東つとむ	3年目	環境整備	臨時職員	阿久津初男	3年目
	指導	指導主事	塩生 敬久	1年目				
赤城	指導	主任指導主事	横溝 佳昭	1年目	指導	臨時職員	尾見 清治	6年目
	指導	指導主事	楠本 伸司	2年目	指導	臨時職員	山崎 雅一	2年目

## 会津高原の夏・家族の集い「胸いっぱい自然を家族と一緒に



平成二十六年八月一日から二泊三日で、「会津高原の夏・家族の集い」が行われました。二十一家族六十二名の方が参加され、会津高原の夏の自然を満喫しました。

初日は、焼き板、そば打ち、イワナさばき・源流探検に分かれて活動をしました。二日は、高倉山登山と飯盒炊飯。突然の雷雨で二日目にできなかったジップラインは三日目にブルーベリー狩りとともに行いました。夜のキャンプファイヤーや満点の星空を観察する活動も含め、三日間を通して、様々な場面で自然と触れ合いながら、大変なことを乗り越え、共に楽しんで家族の絆を深めることができました。

(館岩 伊東)

## PTA協議会来所



### 自然の家視察研修をおえて

さいたま市PTA協議会

平田 昭臣

平成二十六年八月十六・十七日に二か所の自然の家に視察研修に行ってきました。

始めに子ども達同様に入所説明を受け、子ども達の活動内容を聴き、所内見学。イワナさばきも体験し、命の大切さ、自然の恵みに感謝することができました。

子ども達は、この大自然あふれる自然の家で、家庭・学校では感じることのできない貴重な体験をし、大人への成長の一步を踏み出したように感じます。

最後に、お世話になりました所長様をはじめ所員の皆様に感謝申し上げます。

## 人と、自然と、社会と関わる

浦和中学校 劉 涵歴

僕は、館岩に行き、自分が人間としての在り方を学びました。雄大な自然の中で、友達と楽しく活動したり、大自然からの難題を乗り越えたり、達成感というものを知ったり。一番心に残ったのは、班別に活動した時です。協力する大切さ、物事を選ぶ難しさに気がきました。

自分の見ている世界の主人公は自分ですが、自然という大きなものを見て、初めて、僕たち小さな人間は、それを構成する細胞なのだと思えました。だから、これからは、その「大きなもの」をよりよくしていきたいです。



浦和中学校 歓満の滝にて

## ゴーマン杯マラソン大会



平成二十六年十月十九日、館岩の山々が紅葉に染まった頃、「第五回ゴーマン杯南会津町ふるさと健康マラソン大会」が実施されました。本大会には、さいたま市立大砂土東小学校五年生が参加し、当校児童が選手を代表して選手宣誓を行い、開会しました。男女共に、多くの児童が上位入賞を果たし、参加者全員が二キロメートルを完走して、日頃の体力向上に向けた学校の取組みの成果が発揮されました。ゴール後、配られた館岩のトマトで喉を潤わせ、きのこ汁に舌鼓を打つ児童の表情がとても印象的でした。さいたま市と南会津町との交流を目的の一つとして、毎年、さいたま市の児童が参加しているこの大会は、この年も、大砂土東小の児童の参加で大いに賑わいました。

(館岩 目黒)

## 南郷・自然の教室

ソチ五輪銀メダリスト平野歩夢選手の練習場としても有名になった南郷スキー場で、二十六年度は二十校が自然の教室を実施しました。南郷地区は、館岩と同じ南会津町内にあり、昭和五十年に当時の南郷村と浦和市の間に姉妹都市提携が締結されて以来のつながりがあります。

生徒は新たなことへのチャレンジや自分の限界への挑戦に目を輝かせ、スキー指導者との交流からも多くのことを学びました。実行委員を中心にルールやしおりを作ったり、学年レクや雪上運動会を運営したり、一生懸命活動する姿には頼もしさを感じられました。

この冬は十二月から大雪でしたが、さいたま市の中学生は雪と温泉の南郷で、たくさんの思い出をつくることができました。

(館岩 生田目)



## 「白銀の会津高原・家族の集い」

平成二十六年十二月二十六日から二十八日の二泊三日で、市内在住の小・中学生とその保護者、二十一家族六十六名が参加をして行われました。

初日は、館岩少年自然の家の敷地内で、「雪国体験活動」を行いました。選択活動として、「そり遊び」「雪合戦」「雪だるまづくり」「かまくらづくり」「かんじき体験」から二つを選び、体験を行いました。積雪が十分にあり、雪と触れ合いながら家族で楽しそうに取り組んでいました。また、全家族で雪灯籠をつくり、暗闇の中に光る炎の美しさを感じることができました。夜には、キャンドルファイヤーやレクを行い、一日目を終えました。二日目・三日目は、場所をたかつえスキー場に移し、家族でのスキー活動を行いました。二日目は、マイナス二十三度を記録する朝となりましたが、天気にも恵まれ、家族でのスキーを楽しみむ時間となりました。地元のスキー指導者を招いて指導を受ける家族もありました。白銀の大自然を満喫し、充実した表情が見られました。「もつと滑りたかったです。」「またここに来ます。」などという声が聞こえました。

(館岩 伊澤)



## 館岩

### 雪国体験活動(雪灯籠)



雪灯籠を並べて、幻想的できれいな雪の道を作りました。(大宮北中学校)

### 尾瀬ハイキング



平成26年度は大宮小、館岩小が、ミズバショウやリュウキンカなどの花の盛りに尾瀬を歩きました。

# 活動アラカルト

## 赤城

### キャンプファイヤー



子ども達の心が一つとなり、とても思い出深い楽しい時間となりました。(本太小学校)

### 鳥居峠



小沼が増水のため、鳥居峠で弁当を食べました。関東平野が一望できました。(西原小学校)

## スキー指導者として思うこと

冬季スキー指導者 星 浩光



スキー活動の際、私達は、二つのことを目標に、常に頭において指導にあたっています。

まず、第一の目標は、安全に気をつけ、怪我なく活動ができるようにすることです。スキーは、楽しいだけでなく、危険も伴うスポーツです。スキー技術と同様に、どんな危険が潜み、どのように防ぐかということも知ってもらいながら指導しています

二つ目は、スキーを通して、自然の教室が楽しかったと終了時に笑顔を見せてくれるように指導することです。初めてスキーをする人は、スキーに対する不安と共に私たち指導者に対しての不安を抱えていると思います。スキー技術と同様に、様々な場面で私達指導者と接し話をすることで、不安を解消するとともに、さいたま市とは全く違う雪国の生活の様子を感じてもらえるようにしています。終了時に、笑顔で「楽しかった」「またスキーをしたい」という言葉を聞くと、私達もとてもうれしく、やりがいを感じています。